

Canon AS-6



日本語版

使用説明書

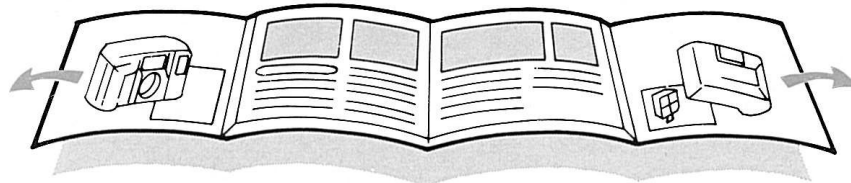
お買い上げありがとうございます

キヤノンAS-6は戸外で活動的な生活を楽しむ人々のためにつくられたコンパクトカメラです。

戸外にいると突然雨が降ってきたり、砂ボコリが舞い上がったり、あやまってカメラに土や泥をつけてしまったりなど思いがけないことが起こります。でも、AS-6ならこのようなときにも安心してお使いいただけ、しかも、水深10mまでの水中撮影ができます。またクローズアップユニット(別売)を利用すれば、野山に咲いている珍しい草花や、海中のサンゴなどに近づいて手軽に大きく写すこともできます。

山登り、キャンプ、ダイビングなどに、キヤノンAS-6をいつもお持ちいただき、すばらしい自然の思い出を残してください。

AS-6の防水性を損なわないために、使用上ご注意ください。使用前にこの使用説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。



この使用説明書は図のように開いてご覧ください。

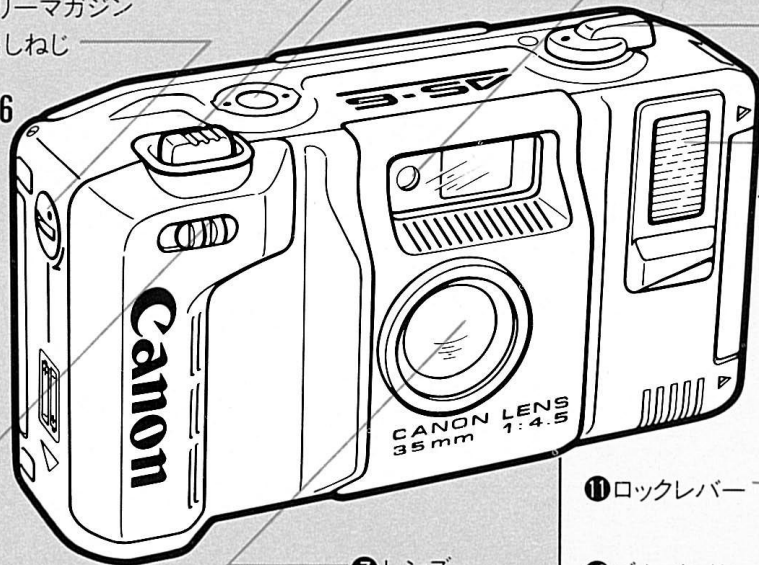
各部名称

このページは本文をお読みになるときに開いて対比しながらご利用ください。
各部名称はP.46にもございます、合わせてご覧ください。

① シャッターボタン

② バッテリーマガジン
引き出しねじ

AS-6



③ フィルム枚数計

④ 測光窓

⑤ ストロボスイッチ

⑥ ストロボ発光部

アクセサリベースAS

⑨ フック

⑩ アクセサリ取り付け部

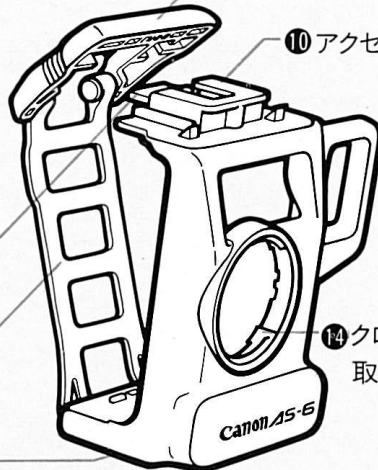
⑪ ロックレバー

⑫ ゴムバンド

⑭ クローズアップレンズ
取り付け溝

⑧ シャッターボタンロック

⑬ ねじ穴

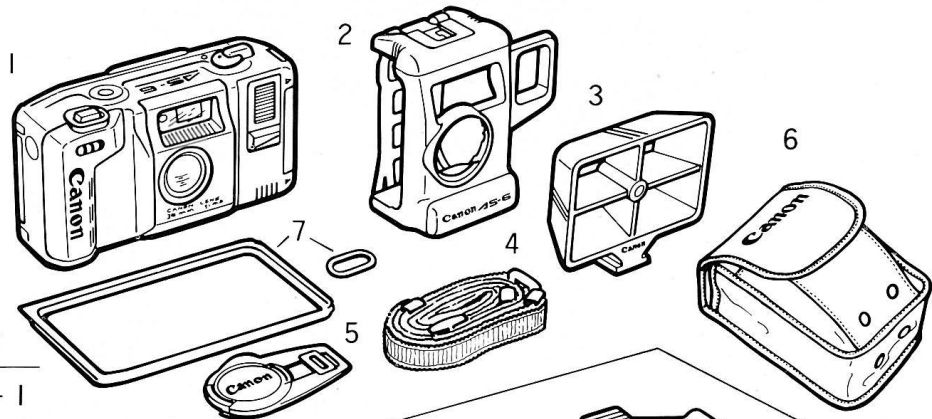


AS-6のセット構成

AS-6基本セット

- 1 AS-6
- 2 アクセサリーベースAS
- 3 スポーツファインダーAS
- 4 ストラップ
- 5 レンズキャップ
- 6 ソフトケース
- 7 スペア用 Oリング・パッキン

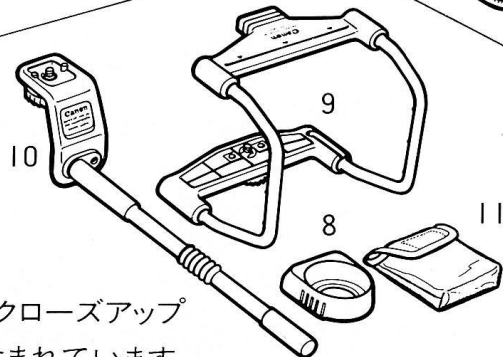
各1



クローズアップユニットAS-6(別売)

- 8 クローズアップレンズAS…接写のためのレンズ
- 9 クローズアップフレームAS…陸上接写用の枠
- 10 クローズアップロッドAS…水中接写用の棒
- 11 クローズアップレンズAS用ソフトケース

各1



フルセットでお買い上げいただいた場合には、基本セット、クローズアップユニット、フィルムケースASおよびウェストバッグがすべて含まれています。

目次

- AS-6のセット構成P. 4
- ストラップ・レンズキャップの取り付け方P. 6
1. 電池を入れます。P. 7
2. シャッターボタンロックを
解除します。P. 9
3. 電池のチェックをします。P.10
4. フィルムを入れます。P.11
5. アクセサリーベースASを取り付けます。P.18
6. 撮影です。P.19
- スポーツファインダーASを利用した撮影 ...P.21
 - ストロボ撮影
ー暗いところで撮りたいときーP.23
- 陸上での接写
ー近づいて大きく写したいときーP.25
7. 水中撮影P.28
- 水中でのストロボ撮影P.29
 - 水中での接写P.30
 - 水中でより良い写真を撮るために ...P.33
8. フィルムを取り出します。P.34
9. カメラを使用したあとはP.36
10. カメラの手入れと保管P.38
11. ^{オー}リング・パッキンの手入れと交換 ...P.39
12. その他のアクセサリP.42
- 主要性能一覧P.44
- アフターサービスについてP.47

ストラップ・レンズキャップの取り付け方

ストラップはストラップ取り付け部⑩に取り付けます。

1) まず、図のように、黒い止め具が1つ付いている方を上部のストラップ取り付け部に取り付けます。

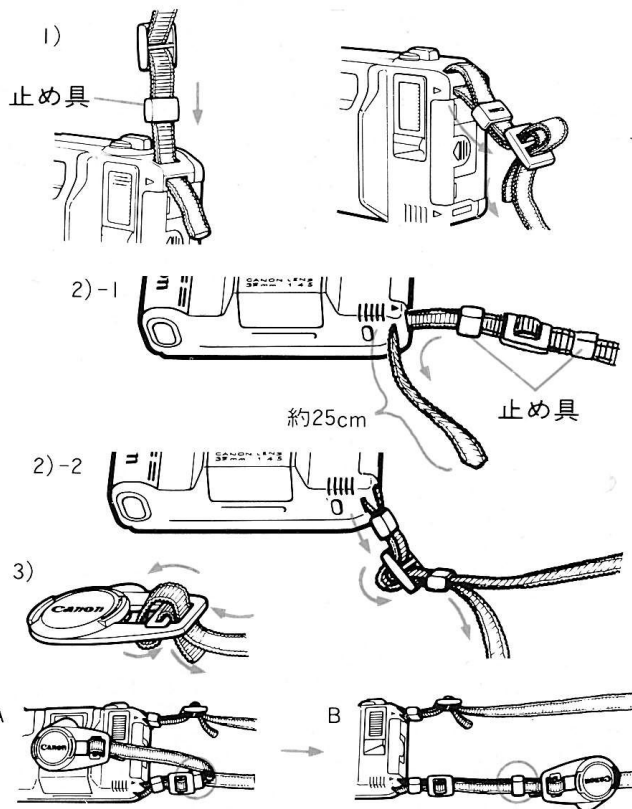
2) 次に、黒い止め具が2つ付いている方を下部のストラップ取り付け部に通します。

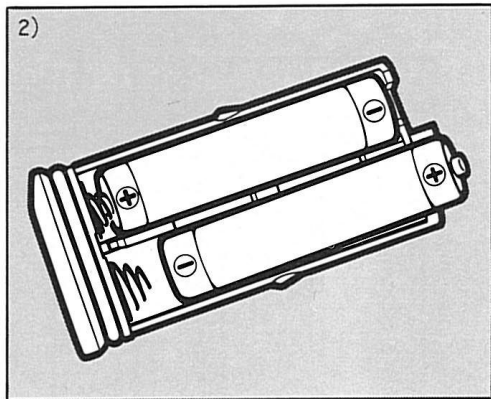
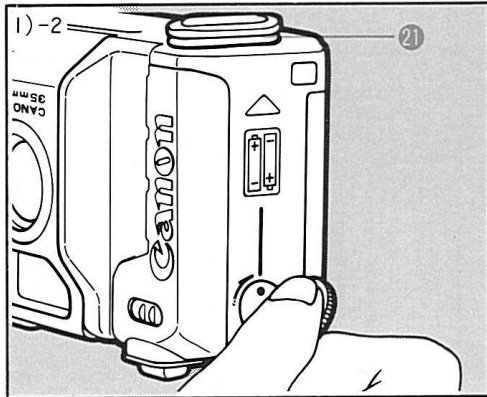
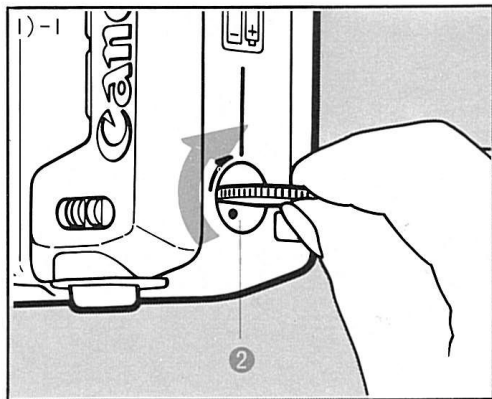
その際、図のように先端から約25cmほど余裕をもたせて下さい。

ストラップを止め具に通します。

3) 余らせたストラップの先端にレンズキャップを図のように取り付けます。

カメラを使用しないときは、A図のように止め具を動かしてレンズにキャップをします。カメラを使用するときは、B図のように止め具を動かすと撮影の際にキャップがじゃまになりません。





1. 電池を入れます。

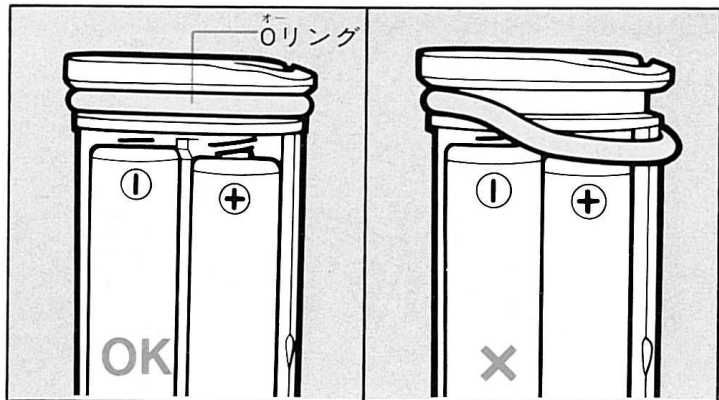
このカメラは電池を入れないと動きません。
 電池は2本とも同じ銘柄で新品の単4形アルカリマンガン電池をご用意ください。
 ◎Ni-Cd電池は使用しないでください。
 ◎マンガン電池も使用できますが撮影本数は少なくなります。

1) バッテリーマガジンを引き出します。

1. 図のように硬貨などを使って、カメラの右側面にあるバッテリーマガジン引き出しねじ②の黄点が黄色い線の位置までくるように、矢印の方向に回します。
2. カメラの底にバッテリーマガジン②①の先端が出ますので引き出してください。

2) 電池を入れます。

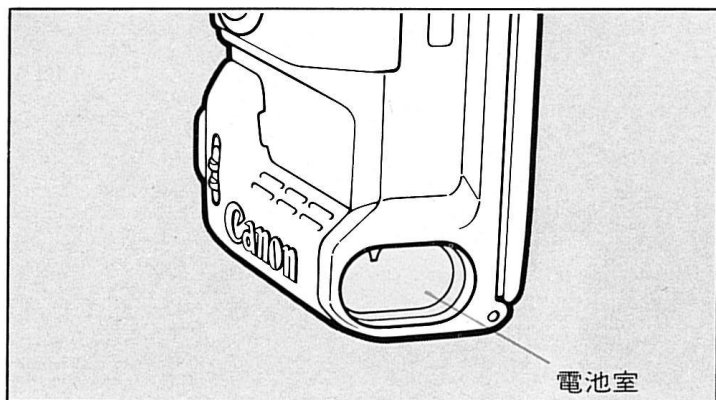
バッテリーマガジン内の表示に従って⊕⊖の方向を間違えないように入れます。



3) ^{オ-}Oリングを点検します。

^{オ-}Oリング(黒いゴムの輪)は防水機能上大切な役割りを果たしています。

^{オ-}Oリングが外れていないか、またはねじれていないかを点検してください。



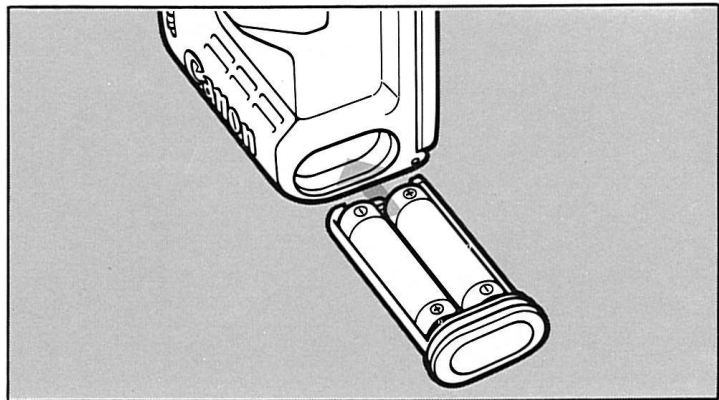
4) カメラ側の電池室を点検します。

電池室の入口や内部に砂やゴミが付着していないかを点検してください。

砂やゴミが付着しているときには、清潔なやわらかい布でふきとってください。

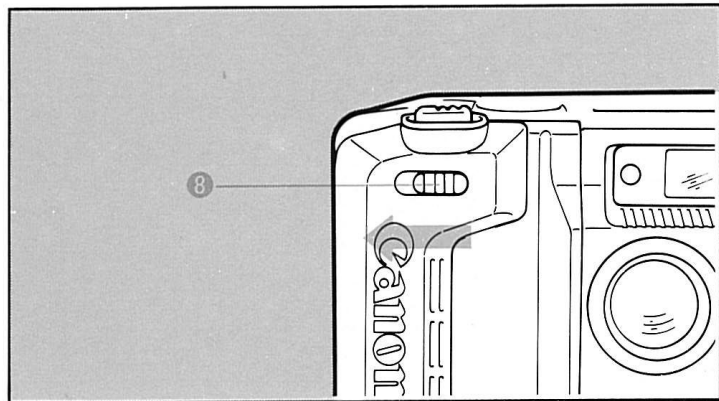
◎ ^{オ-}Oリングにキズが付いていたり、電池室にゴミが付着したまま使用すると、防水性が損なわれ故障の原因となります。

^{オ-}Oリングにキズが付いていたり、砂やゴミが付着しているときにはP.39の^{オ-}<Oリングの手入れ>の項目をご覧ください。



5) バッテリーマガジンを挿入します。

バッテリーマガジン④を図のような向きで電池室に入れて、カチッと音がするまで確実に押し込んでください。

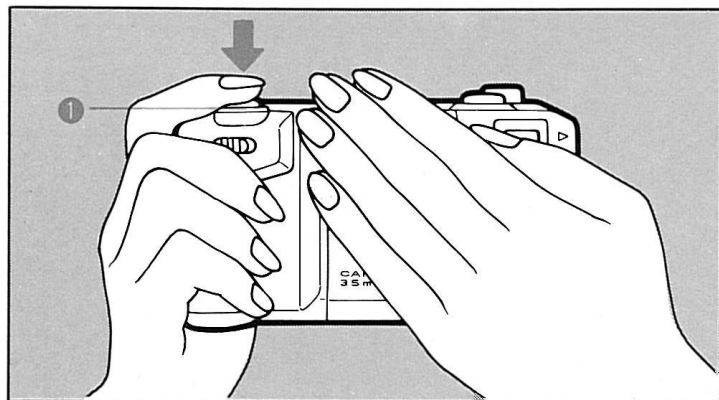


2. シャッターボタンロックを解除します。

シャッターボタンロック⑧を矢印方向に動かしてロックを解除します。

◎ シャッターボタンをロックした状態ではシャッターボタンは押せません。

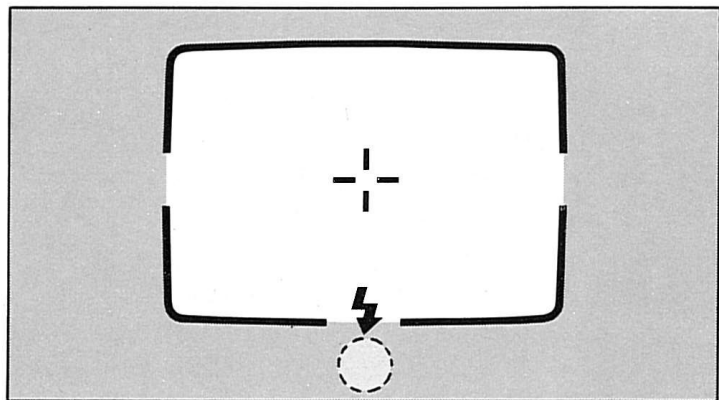
カメラを使用しないときには、シャッターボタンをロックしておいてください。不用意にシャッターが切れるのを防ぎます。



3. 電池のチェックをします。

測光窓※④を手でおおい、ファインダー⑱をのぞきながらシャッターボタン①を軽く押しませす。ファインダー内下側に赤ランプが点滅すれば電池の性能はOKです。

※このカメラは、内蔵しているメーターで光量を測り自動的に露出を適正にします。この光量を測る窓を測光窓といいます。



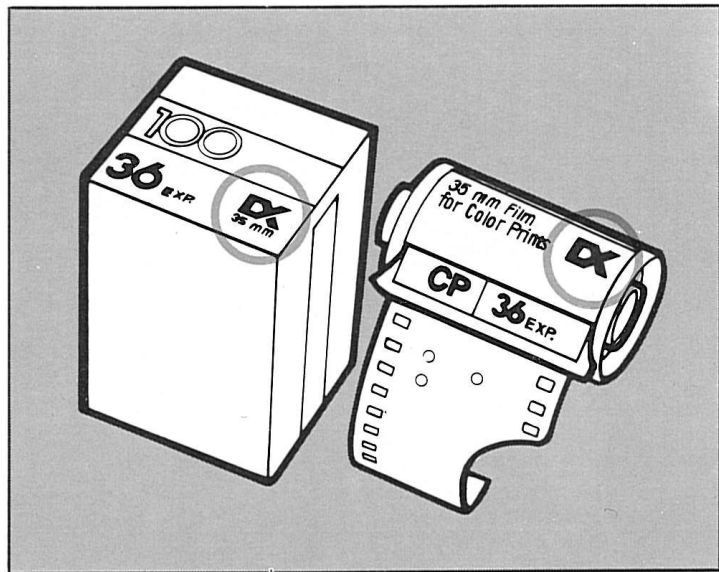
◎ファインダー内に赤ランプが点滅しないとき、またはシャッターボタンが押せない場合は2本とも同一銘柄の新品電池に交換してください。(電池を入れるときに⊕⊖の向きが間違っている場合も、赤ランプは点滅しませんのでご確認ください。)

◎撮影可能本数：24枚撮りフィルムで新品アルカリマンガン電池使用時

| | 常温20℃ | 低温-10℃ |
|-------------------|-------|--------|
| ストロボを使わないとき | 約50本 | 約3本 |
| すべてのコマにストロボを使ったとき | 約5本 | 約1本 |

電池によってバラツキがありますので、この数値は目安にしてください。

◎電池性能は低温下(0℃以下)では非常に低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互にお使いください。なお、低温下で低下した電池性能は常温に戻ると復元します。



4. フィルムを入れます。

フィルムは、DXマークの付いたフィルムを使用してください。

DXマークの付いたフィルムをこのカメラに使用すると、カメラが自動的にフィルムの感度*を読みとってセットします。

ネガカラーフィルムの場合は、ISO100, 200または400のものを、リバーサルフィルムの場合はISO100または400のものをご使用ください。

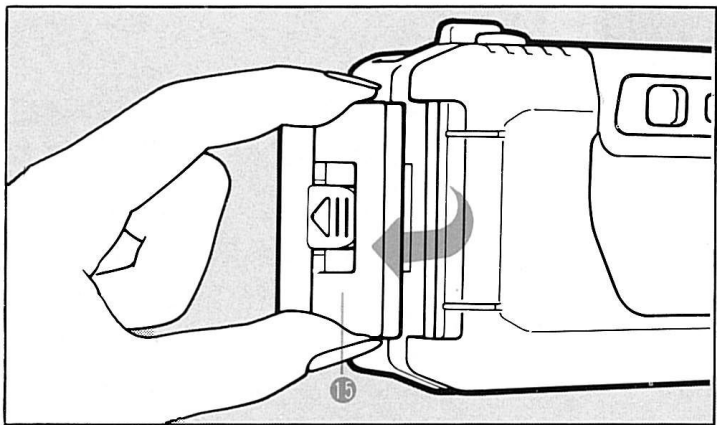
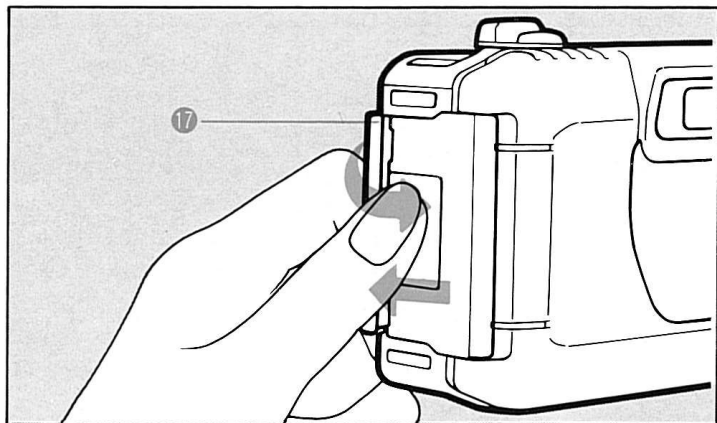
通常の場合はISO100のネガカラーフィルムのご使用をおすすめします。

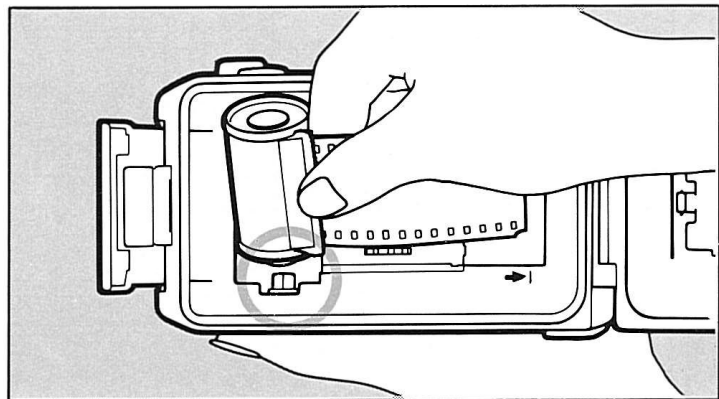
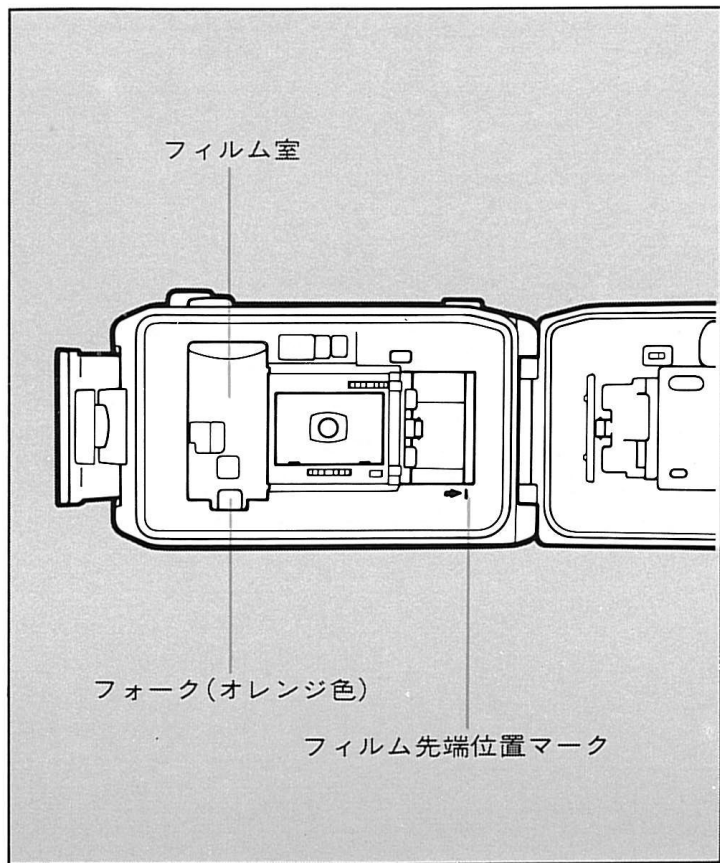
※フィルム感度とは、フィルムが光に感じる度合を数値で示したものです。

◎DXマークのないフィルムはISO100のもののみをご使用ください。

1)裏蓋を開けます。

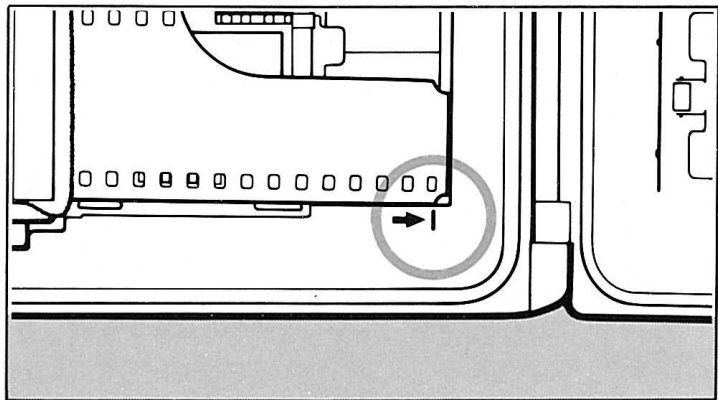
バックルロック⑰を矢印方向にスライドさせて持ちあげながら図のようにバックル⑱をはずして裏蓋⑳を開けてください。



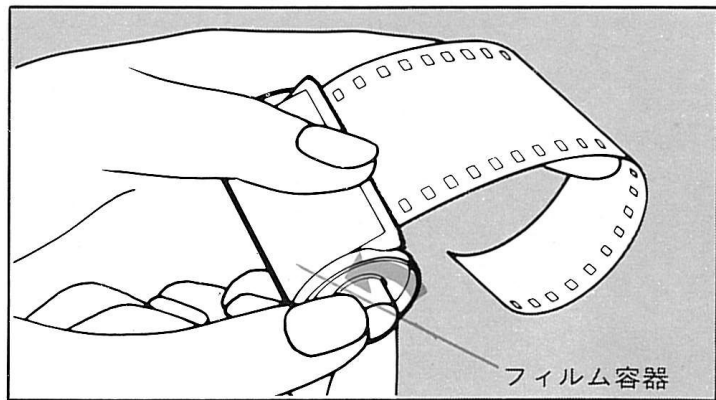


2) フィルムを入れます。

フィルムは図のようにフィルム軸の突き出た方を下にして持ち、オレンジ色のフォークにかぶせるように押し付けながら入れます。



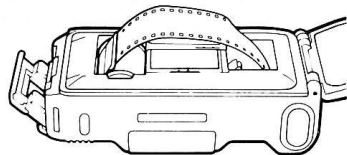
3) フィルム先端が右下のフィルム先端位置マーク(⇒1)に合うように、フィルムを引き出します。



◎フィルムの引き出し部分が長いときはフィルム容器に少し巻き戻し、フィルム先端位置マークに合うように長さを調節してください。

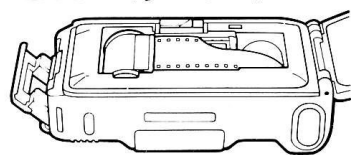
◎フィルムはB図のように入れてください。

× (フィルムが
浮いている)

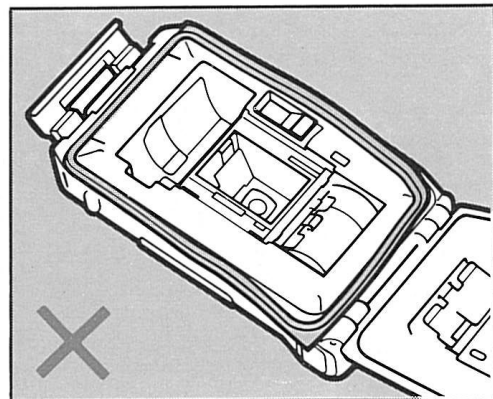
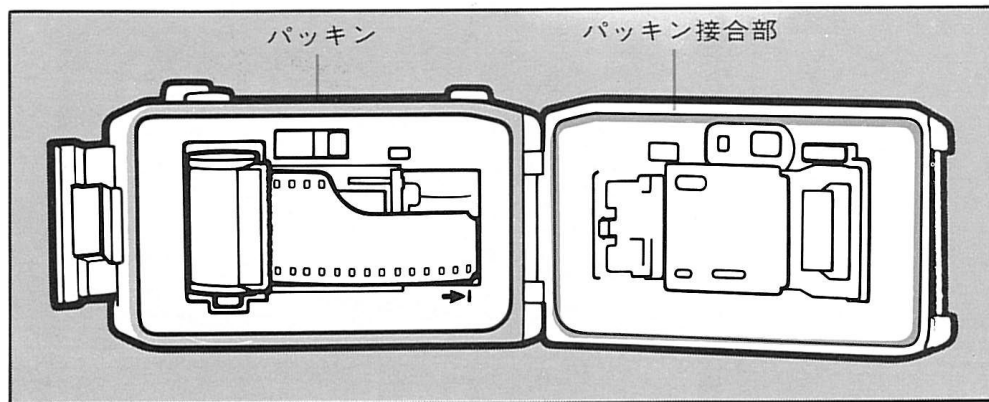


A

OK (フィルムが
浮いていない)



B



4) パッキンを点検します。

パッキン(黒いゴムの枠)は、^{オー}リングと同じように防水機能上大切な役割りを果たしています。

パッキンが外れていないか、またはねじれていないかを点検してください。

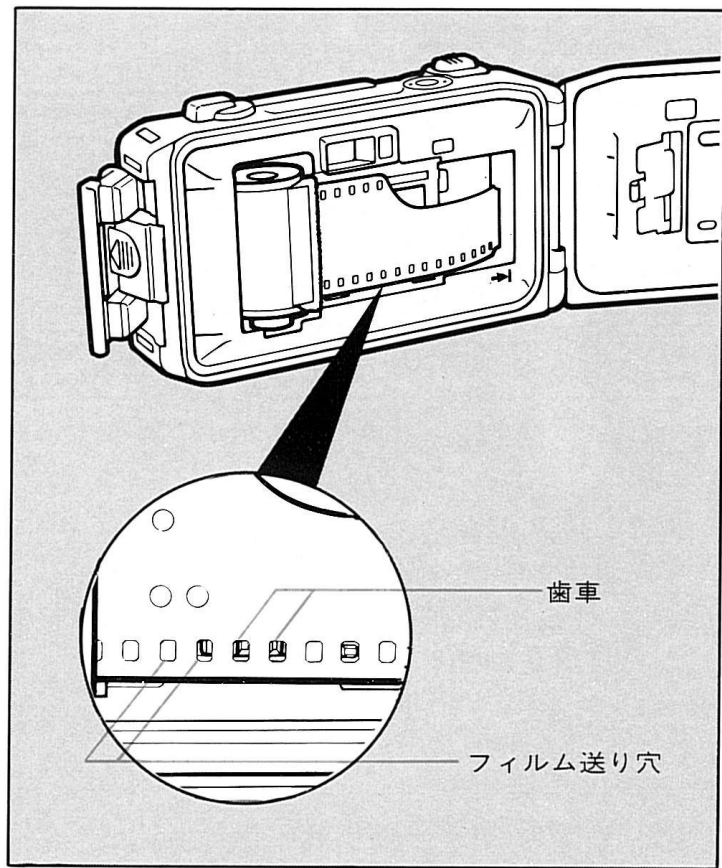
5) 裏蓋側のパッキン接合部を点検します。

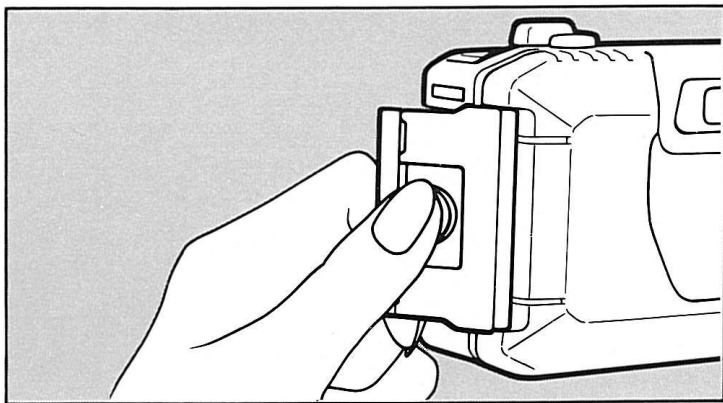
裏蓋側のパッキンと接触する部分に砂やゴミが付着していないかを点検してください。

砂やゴミが付着しているときには、清潔なやわらかい布でふきとってください。

◎パッキンにキズが付いていたり，裏蓋にゴミが付着したまま使用すると，防水性が損なわれ故障の原因となります。

パッキンにキズが付いていたり，砂やゴミが付着しているときにはP.40の〈パッキンの手入れ〉の項目をご覧ください。

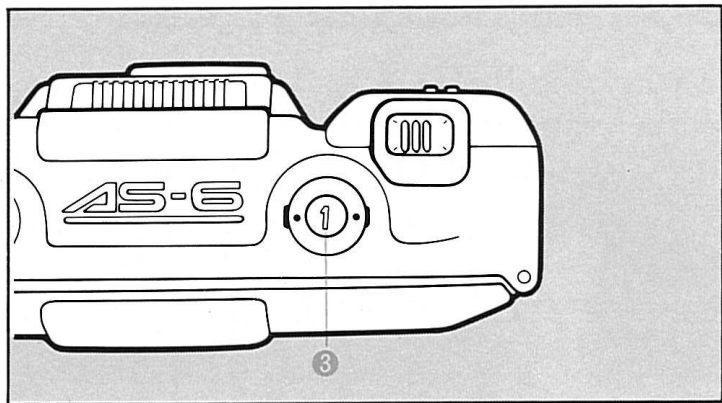




6)裏蓋を閉じます。

フィルム送り穴に歯車が入っていることを確認し、裏蓋⑳を閉じてバックル㉑を掛けます。

裏蓋を閉じる際、ストラップをバックルにはさまないようにご注意ください。

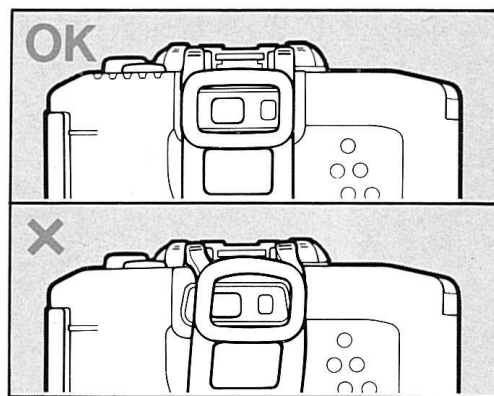
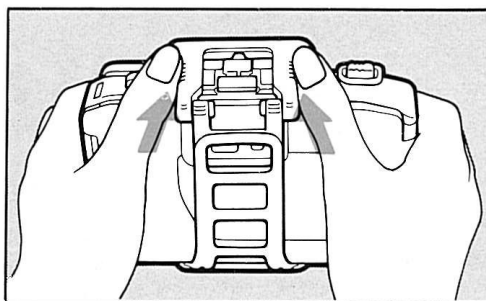
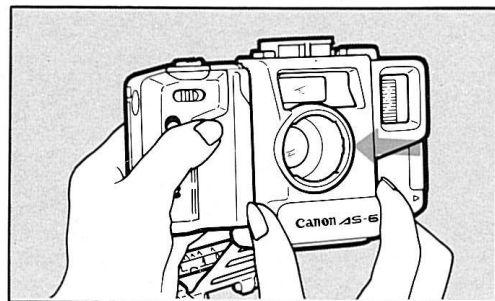


7)シャッターボタンを押して空送りをします。

フィルム枚数計③に"1"が出るまで、シャッターボタン①を繰り返し押します。

◎シャッターボタンを押してもフィルム枚数計が動かないときはフィルムが正しく送られていません。フィルムを正しく入れ直してください。

アクセサリベースASは、スポーツファインダーASやクローズアップユニットなどのアクセサリを取り付けるための土台となるものです。



5. アクセサリベースを取り付けます。

1) アクセサリベースASをかぶせます。

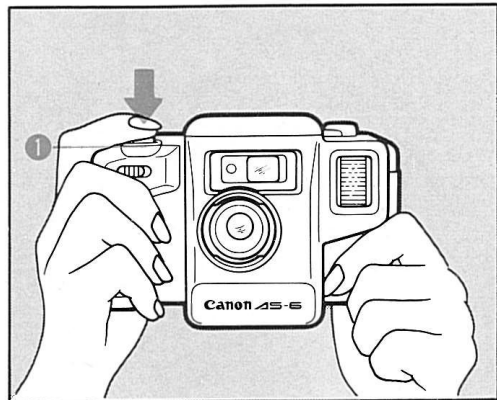
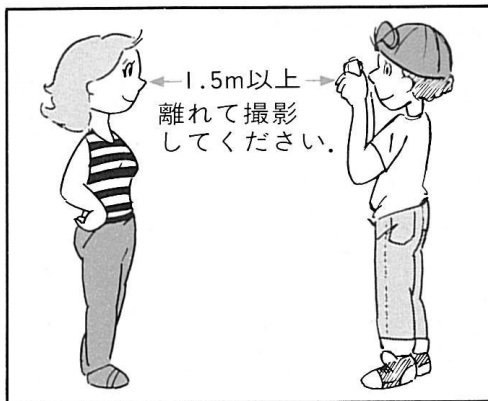
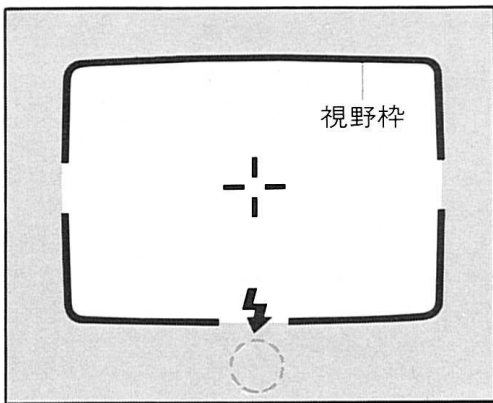
図のようにカメラの前面部にアクセサリベースASをかぶせ、指で押し付けてはめこみます。

2) フックを掛けます。

ゴムバンド⑫を伸ばしながら、図のように両手で肩の部分を押さえるようにしてアクセサリ取り付け部⑩にフック⑨を掛けます。

このときゴムバンドでファインダー⑬やパイロットランプ⑭をおおわないように注意してください。

アクセサリを使用しないで撮影するときは、アクセサリベースASは取り付けなくても構いませんが、レンズ⑦やファインダー⑬、ストロボ発光部⑥を保護する役割りも果たしますので、使用することをおすすめします。



6. 撮影です。

1) 構図を決めます。

ファインダー⑩をのぞいて視野枠を撮りたいものに合わせます。視野枠の内側にあるものが写ります。

◎ピントの合った写真が撮れる範囲は1.5m～∞(無限遠)です。1.5m以上離れて撮影してください。

◎ファインダー内にアクセサリベースASの一部が見えますがフィルム上には写りません。

◎撮影の際にはキャップを外すことを忘れないようにご注意ください。

2) シャッターボタン①を軽く押します。

ファインダー内に赤ランプが点滅するかどうか、確かめます。

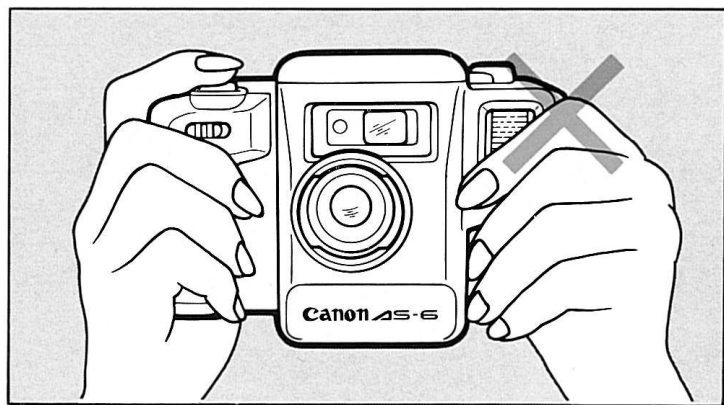
3) 赤ランプが点滅しなければ、さらに深く押し、撮影します。

赤ランプが点滅するときは明るさが不足しています。ストロボ撮影を行ってください。(P. 23参照)

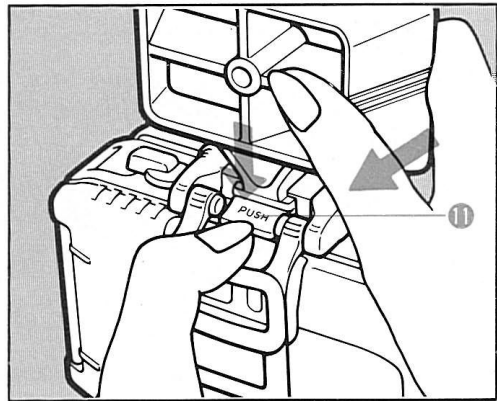
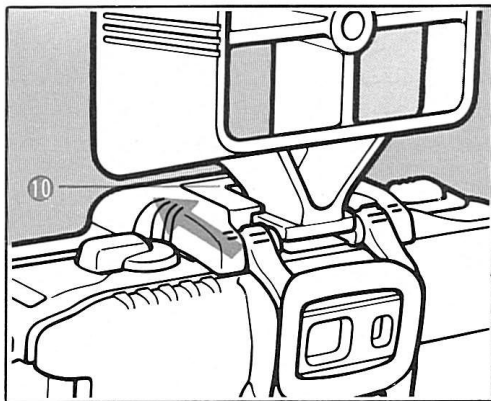
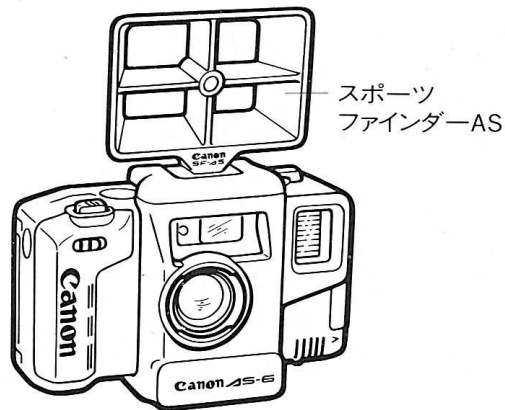


◎カメラを構えるときは、一方のひじを軽く体につけます。

4) 撮影後、シャッターボタン①から指を離すとカメラが自動的にフィルムを次のコマまで巻き上げます。同時にフィルム枚数計③の数字も進みます。



- ◎カメラ前面の測光窓④，レンズ⑦，ストロボ発光部⑥などを指や髪などでおおわないように注意してください。
- ◎電池の容量が低下すると巻き上げができなくなります。このような場合には電池を新しいものと入れ換えてください。(P.7 参照)



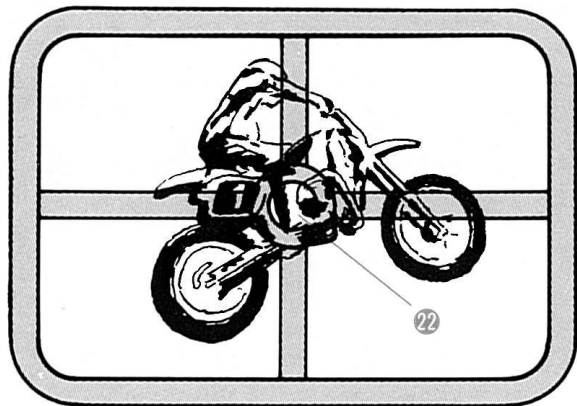
スポーツファインダーを利用した撮影

走っている人や車など、動きの比較的速いものを写すときにはファインダー⑩をのぞいて撮りたいものを追うのがむずかしくなります。そのようなときは、付属のスポーツファインダーASを取り付けてファインダーのかわりにすると便利です。

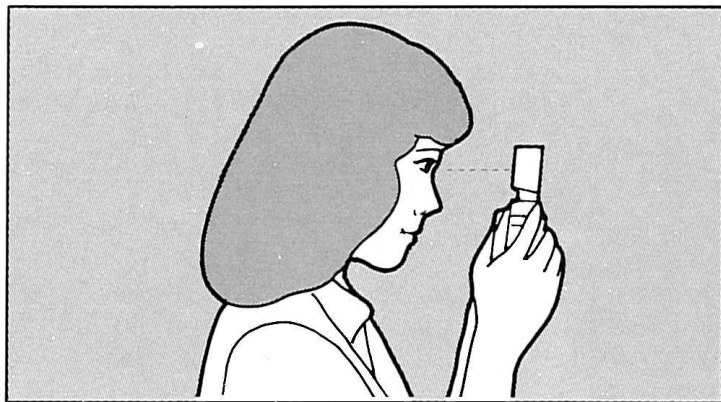
また、とっさに何かを撮りたいときにもスポーツファインダーASをカメラに取り付けておけば大切なシャッターチャンスのをがしません。

1) スポーツファインダーASを取り付けます。
スポーツファインダーASを図のような向きにして、アクセサリ取り付け部⑩に差し込みます。カチッと音がして確実にロックされるまで十分に差し込んでください。

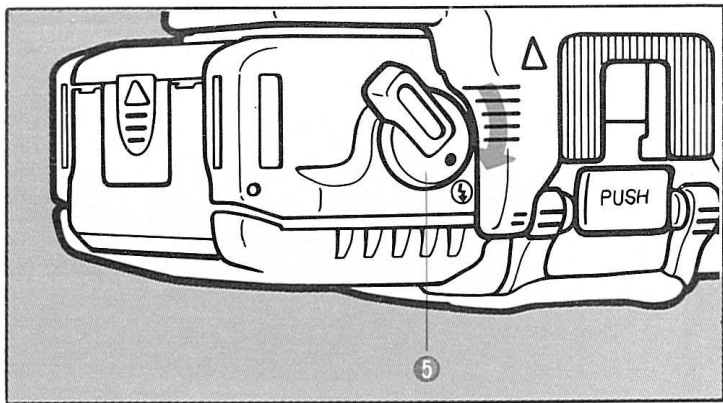
◎取り外すときにはロックレバー⑪を押し下げながらスポーツファインダーをスライドさせます。



2) スポーツファインダーASの後方からセンターホール②をのぞき、撮りたいものの中心をねらって撮影します。



◎スポーツファインダーASはカメラのファインダーのかわりに目安として使用するものです。スポーツファインダーASから見える視野とカメラのファインダーの視野には多少のずれがありますが、スポーツファインダーASは枠が上下左右とも同じ厚みに見える位置(センターホールの後方約6.5cm)からのぞいたときにファインダーの視野にもっとも近づくように設計されています。

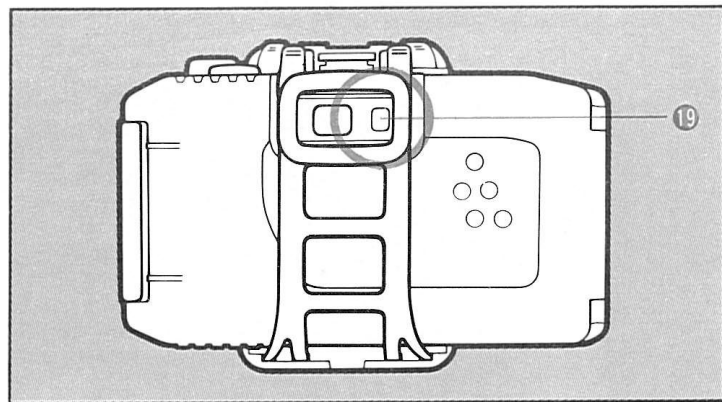


ストロボ撮影

—暗いところで撮りたいとき—

シャッターボタン①を軽く押して、ファインダー⑯内下側中央に赤ランプが点滅するときは、明るさが不足していることを示します。このような場合にはストロボを使用して撮影すれば、暗いところでもきれいな写真が撮れます。

- 1) ストロボスイッチ⑤を⚡マークに合わせます。



- 2) パイロットランプ⑱の点灯を確認します。
 - 3) ファインダーの視野枠に撮りたいものを入れて撮影します。
 - 4) ストロボスイッチをカチッと音がするまで確実に元の位置に戻します。
- ◎赤ランプが点滅しているときにストロボを使用しないで撮影すると、ブレた写真や露出が適正でない写真ができます。
 - ◎パイロットランプ点灯前にシャッターボタンを押すと、暗い写真になります。

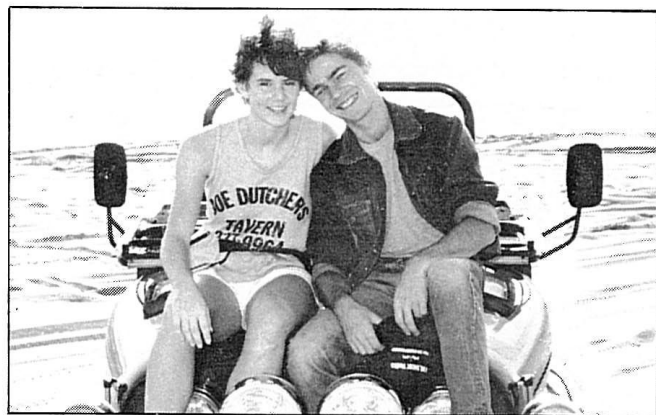
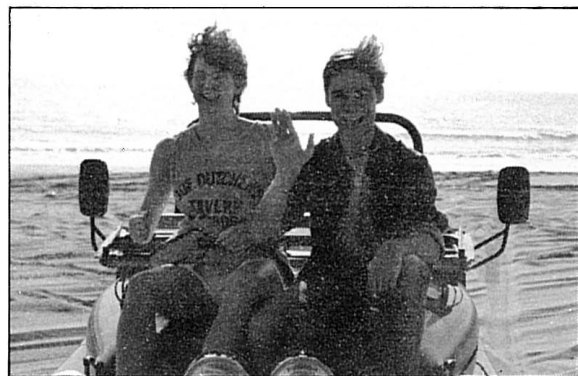
◎パイロットランプ点灯後でも軽くシャッターボタンを押すと赤ランプが点滅しますがストロボ撮影は正しく行われます。

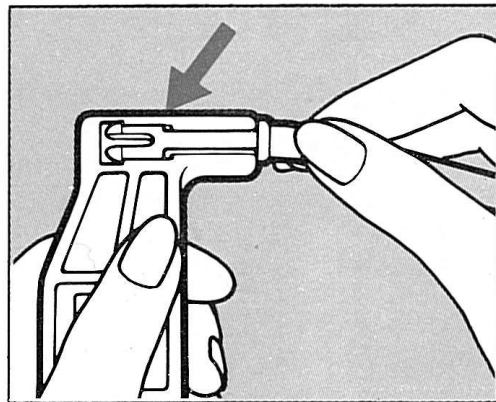
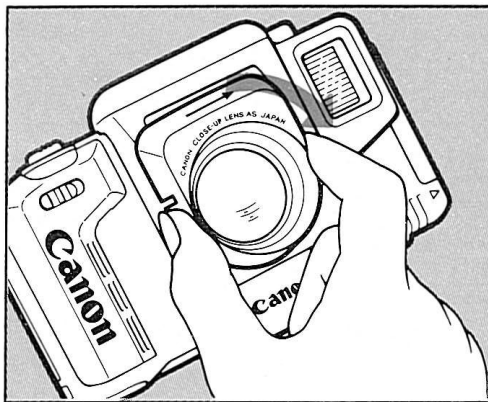
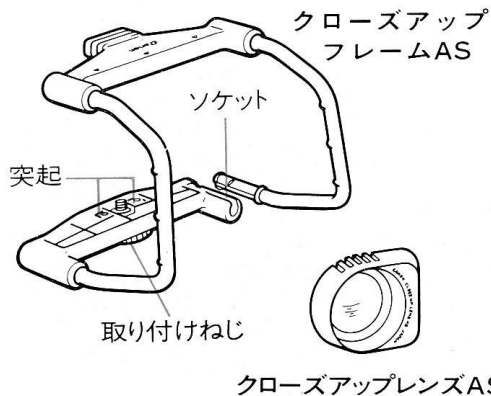
◎ストロボ撮影をしないときは、ストロボスイッチを確実に元の位置に戻してください。

⚡マークに合わせたままにしておくと電池の消耗を早めます。

◎ストロボ使用时、シャッターボタンを軽く押したままにしていると、ストロボは充電されずパイロットランプは点灯しません。

◎窓際など逆光のときや、木かげ、夕方などの人物撮影の際、写される人の顔が暗くなってしまうことがあります。そのようなときは1.5m～3mの範囲に人物をおいてストロボ撮影をすればきれいな写真を撮ることができます。ご利用ください。





陸上での接写

—近づいて大きく写したいとき—

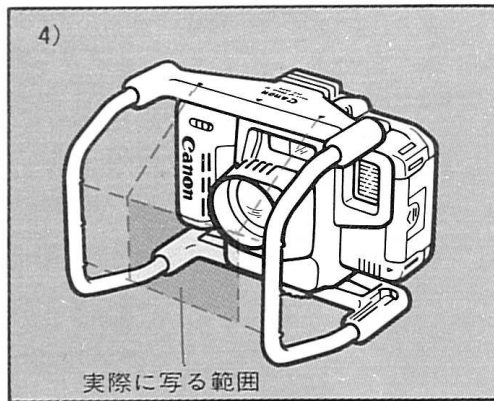
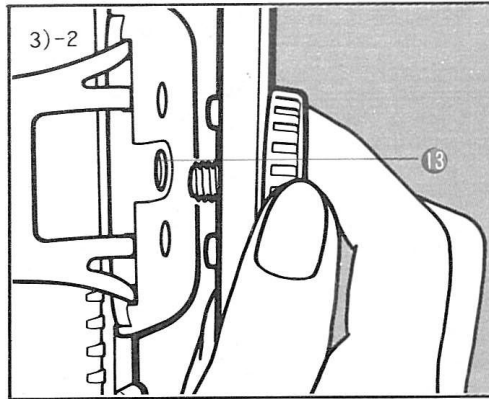
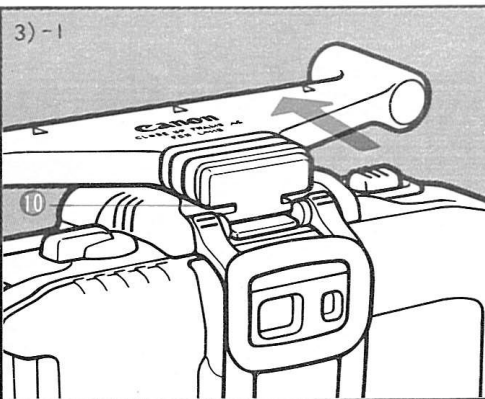
AS-6には接写(撮りたいものに近づいて大きく写すこと)用のアクセサリが用意されています。(別売)

接写のときは、カメラから撮りたいものまでの距離が決まっています。

陸上での接写には、まずクローズアップレンズASを取り付けて、クローズアップフレームASを撮影距離と撮影範囲の目安として使い

ます。

- 1)クローズアップレンズASを取り付けます。
アクセサリベースASのクローズアップレンズ取り付け溝⑭にクローズアップレンズASをはめ込み、矢印の方向に90°回して取り付けます。
- 2)クローズアップフレームASを組み立てます。
組み立てたとき、取り付けねじが外側になるようにフレームの足をソケットに差し込みます。



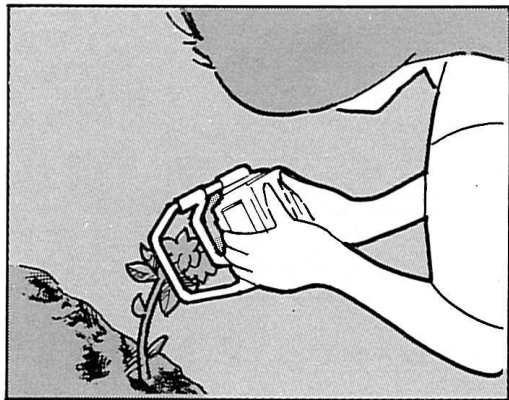
3) クローズアップフレームASを取り付けます。

1. まず、アクセサリ取り付け部⑩にフレームを差し込んでください。
2. 次に、アクセサリベースAS底部のねじ穴⑬および両脇の2つの穴にフレームの取り付けねじと突起を合わせます。
3. 取り付けねじを回して締め付けてください。

4) 撮りたいものをフレーム前面に接触させます。

図にあるように、フレーム上部の▼印とフレームの足の—印を結んでできる□の部分
が写る範囲です。

接写のときにはファインダーの視野枠にたよらずに、撮りたいものが□の範囲に入っているかどうかを直接目で確かめて撮るようにしてください。



5) シャッターボタン①を軽く押して、ファインダー⑩内の赤ランプの有無を確認めます。赤ランプが点滅しなければ、ファインダーから目を離して再び構図を確認したのちに撮影します。

◎赤ランプが点滅しても、ストロボ撮影はしないでください。光が強すぎて画面全体が白っぽくなってしまいます。

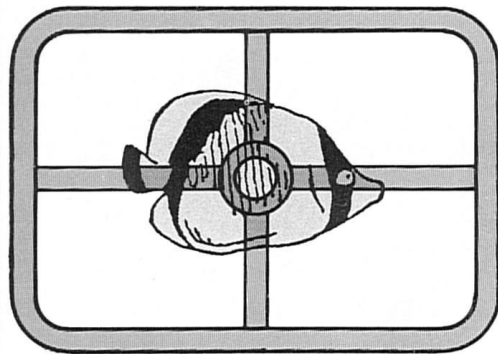
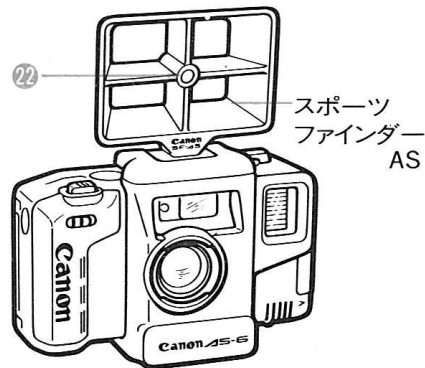
赤ランプが点滅したときには、明るい場所へ移動するか、ライトを当てるなど他の方法で照明し撮影してください。

◎クローズアップフレームASは接写以外の撮影のときにも取り付けたままで構いませんが、ストロボは使用しないでください。フレームが影になって画面に写り込んでしまいます。

◎直線的なものを接写すると、撮影画面がゆがむ傾向にあります。

陸上で撮影できる距離の範囲は以下の表のようになります。

| | | 撮影距離 | |
|--------------|-----------------------------|-----------|--|
| ストロボを使用しないとき | 1.5m~∞(無限遠) | | |
| ストロボを使用するとき | ISO 100のフィルム使用時 | 1.5m~3.2m | |
| | ISO 400のフィルム使用時 | 1.5m~6.4m | |
| 接写を行うとき | クローズアップフレームASを距離の目安として使用する。 | | |



7. 水中撮影

このカメラは、通常の撮影の他に、水深10mまでの水中撮影が楽しめます。

水中で撮影する際は水中メガネを使用してください。

水中ではカメラのファインダー⑱がのぞきにくくなりますので、スポーツファインダーASをカメラのファインダーのかわりに目安として使用すると大変便利です。

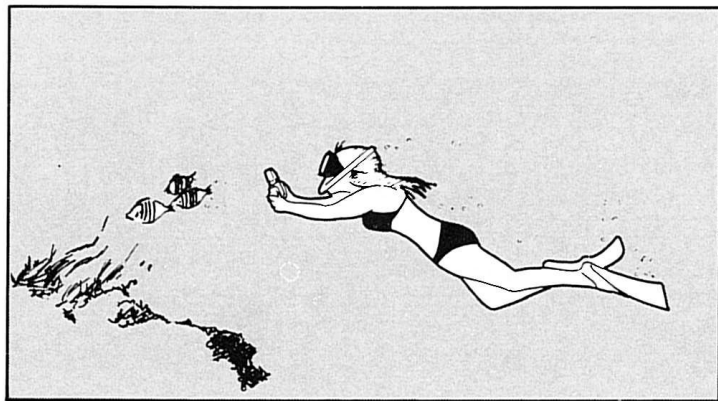
1) スポーツファインダーASを取り付けます。
(P.21参照)

2) 構図を決めます。

スポーツファインダーASの後方からセンターホール⑳をのぞいて、撮りたいものの中心に合わせます。

◎水中撮影の場合には、撮影できる距離範囲が陸上とは異なります。

陸上撮影の際の距離範囲は1.5m～∞(無限遠)ですが、水中では1m～3.2mとなります。

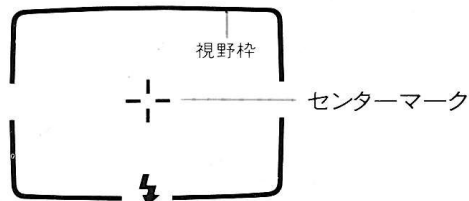


3)シャッターボタン①を軽く押して赤ランプの有無を確認めます。

ファインダー内に赤ランプが点滅しなければ、さらに深く押して撮影します。

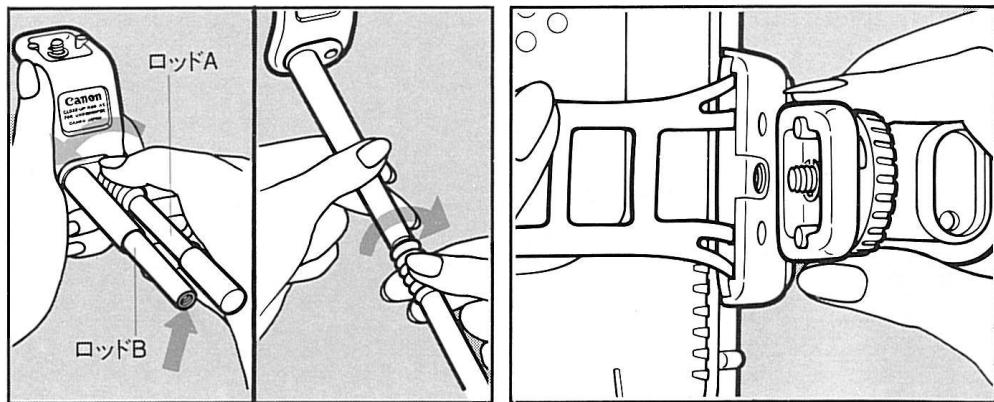
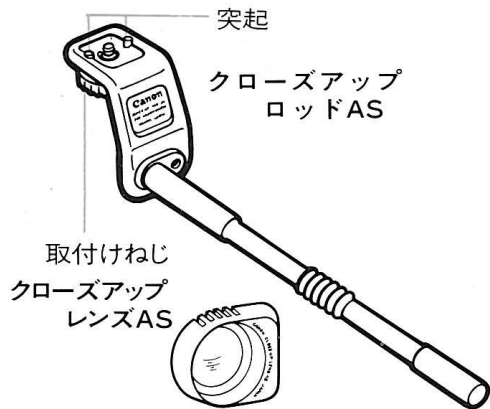
赤ランプが点滅するときは、ストロボ撮影を行ってください。

◎水中ではファインダーの視野枠が見にくくなります。スポーツファインダーASを使用しないで水中撮影を行う場合には、ファインダー中央のセンターマークを撮りたいものの中心にあわせて撮影してください。



水中でのストロボ撮影

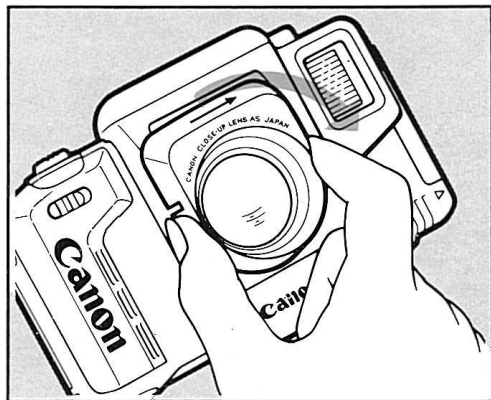
水中撮影の際、シャッターボタン①を軽く押して、ファインダー内下側中央に赤ランプが点滅したらストロボ撮影を行ってください。ストロボ撮影の手順は陸上の場合と同じです。(P.23参照)



水中での接写

水中接写をするときには、陸上の接写と同じように、ピントの合う距離範囲に限られます。水中の接写には、クローズアップレンズASを取り付けて、クローズアップロッドASを撮影距離範囲の目安として使用します。

- 1) クローズアップロッドASを組み立てます。
ロッドAを回して取り外し、ロッドBの先端にねじ込みます。
- 2) クローズアップロッドASを取り付けます。
 1. アクセサリーベースAS底部のねじ穴⑬および両脇の2つの穴にクローズアップロッドASの取り付けねじと突起を合わせてください。
 2. 取り付けねじを回して締め付けてください。

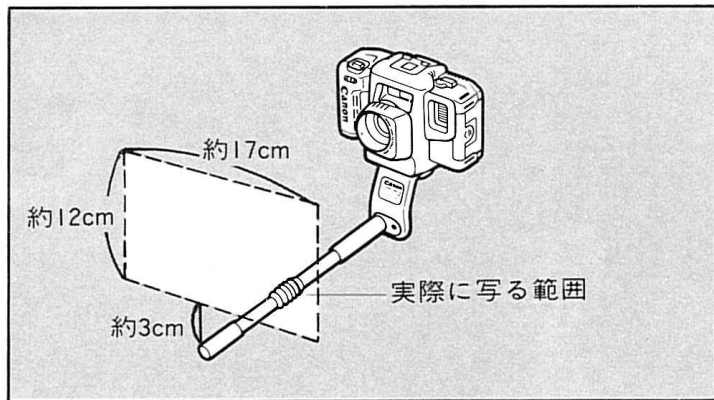


3)アクセサリベースASにクローズアップレンズASを取り付けてください。(P.25参照)

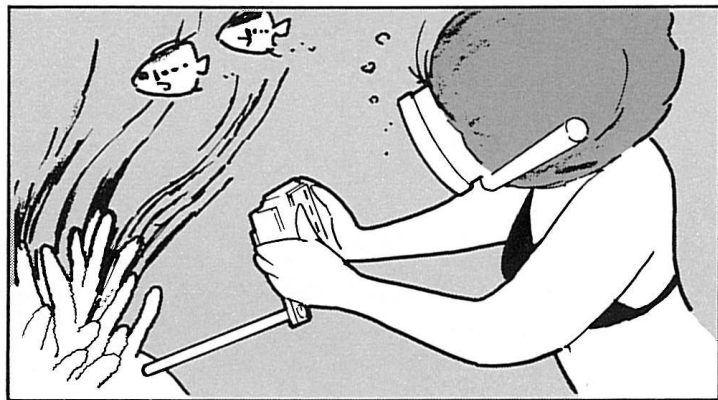
◎クローズアップレンズASは水中で取り付けてください。

クローズアップレンズASを取り付けてから潜るときは水中で一度取り外し、クローズアップレンズASと本体の間に入った空気をぬいてください。

空気がいっていると画面がボケてしまいます。



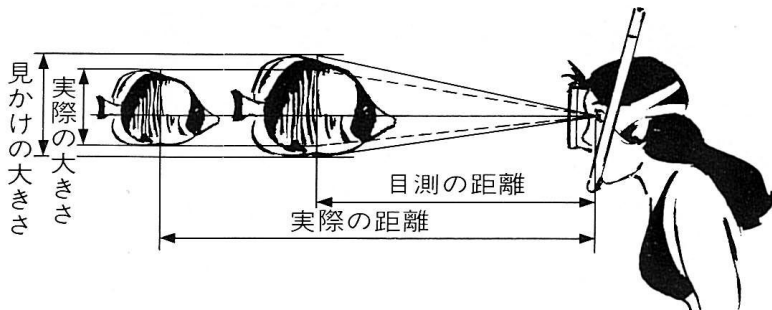
4)撮りたいものにロッドの先端を近づけます。
図にあるように、ロッドの先端から約3cm上方のタテ約12cm×ヨコ約17cmの範囲が写ります。



5) シャッターボタン①を軽く押して、ファインダー⑩内の赤ランプの有無を確認めます。赤ランプが点滅しなければ、ファインダーから目を離して再び構図を確認したあと、シャッターボタンを深く押して撮影します。赤ランプが点滅するときはストロボ撮影を行ってください(P.23参照)

- ◎水中接写でストロボを使用するときはISO100のネガカラーフィルムを使用してください。リバーサルフィルム、およびISO200以上の高感度フィルムは使用できません。
- ◎水中接写でストロボ撮影をすると、撮影画面の右端がやや暗くなります。

水中でより良い写真を撮るために



水中で撮影する場合は、以下のことを知っておくとより良い撮影結果が得られます。

- 水の屈折率は空気中のその約1.33倍であるため、ものが実際よりも約1/4程度近く、大きく見えます。
したがって、1m～3.2mという撮影距離範囲は水中では0.75m～2.4mぐらいに見えます。
- 水中では、赤色の光が吸収され青色の光が最後まで残るため、カラー写真が青みがかりま

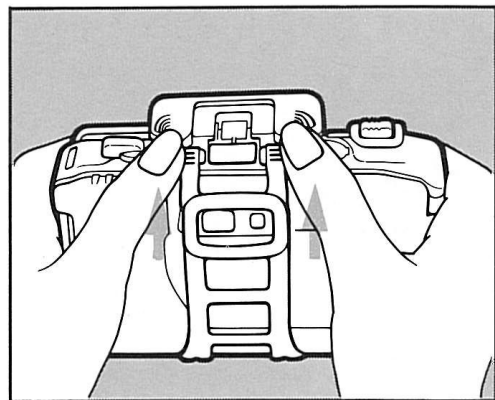
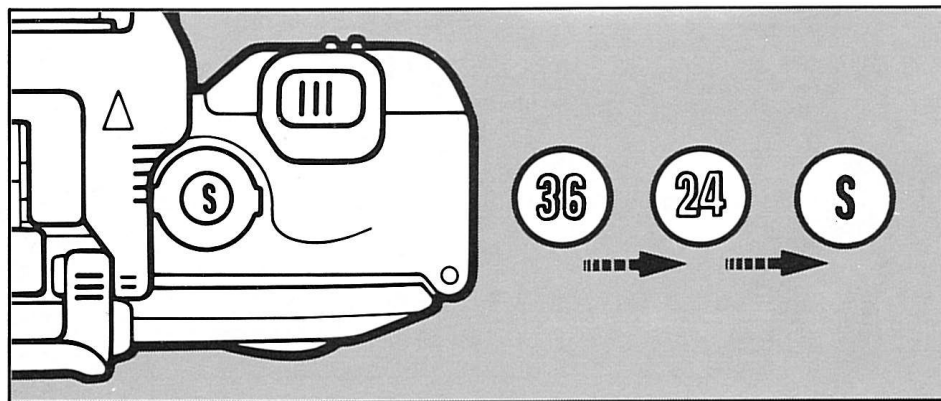
す。なるべく近距離でストロボ撮影を行うとある程度は青みが押さえられます。

- プランクトンやゴミなどの浮遊物が多い水中では、ストロボ撮影を行うと、ストロボの光がこれらの浮遊物に反射して画面に写り込むことがあります。このようなときは、なるべく撮りたいものに近づいてストロボ撮影を行うとより良い結果が得られます。

水中で撮影できる距離の範囲は以下の表のようになります。(ネガフィルム使用時)

| | | 撮影距離 | |
|------------------|----------------------------|----------------------|--|
| ストロボを 使用しないとき | 1 m～3.2m(0.75m～2.4m) | | |
| ストロボを 使用するとき | ISO 100の フィルム使用時 | 1 m～2 m(0.75m～1.5m) | |
| | ISO 400の フィルム使用時 | 1 m～3.2m(0.75m～2.4m) | |
| 接写を行うとき | クローズアップロッドASを距離の目安として使用する。 | | |

()内は目測の値



8. フィルムを取り出します。

- 1) カメラが自動的にフィルムを巻き戻します。
フィルムが終了すると、数秒後にカメラが自動的に巻き戻しを始めますので、フィルムの巻き戻し操作は不要です。
巻き戻し中はフィルム枚数計③が連動して逆算します。
巻き戻しが終わるとカメラは自動停止します。

2) フィルム枚数計が“S”まで戻っていることを確かめてください。

- 3) アクセサリーベースASを外します。
 1. 図のように両手でフック⑨の手前の端を押しフックを引き上げるようにして外します。
 2. カメラの前面からアクセサリーベースASを取り外します。

4) カメラの汚れや水分を十分にふきとってください。

裏蓋を開ける前に必ずカメラの汚れや水分を十分にふきとってください。その際、汚れたままのレンズ⑦やファインダー⑱およびストロボ発光部⑥をこすらないようにご注意ください。また、髪や手をよく拭いてからフィルムの取り出しを行ってください。カメラ内部に水分が入ると故障の原因となります。

◎汚れがひどい場合には、フィルムを取り出す前にカメラを真水で洗ってください。洗い方については、P.36の「カメラを使用したあとは」の項目を参照してください。

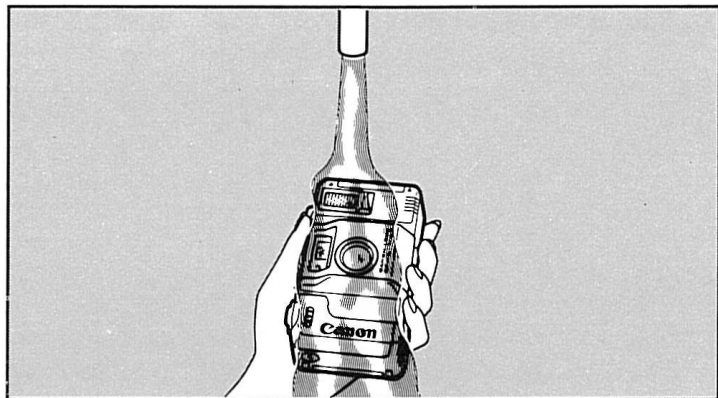
5) 裏蓋⑳を開いてフィルムを取り出します。

◎このカメラは気密性が高いために、気圧の影響により裏蓋が開けにくくなることがあります。この場合には、バッテリーマガジン㉑を一度出して(P.7「電池を入れます」の項参照)、内部の圧力をまわりの気圧と等しくしてから、裏蓋を開けてください。

◎撮影の途中で巻き戻しをするときは、レンズ⑦を完全に手でおおい、シャッターボタンを繰り返し押して、フィルムを最後まで撮り終わった状態にしてください。

◎フィルムの規定枚数以上に撮影すると、最後のコマは現像処理でカットされることがあります。

◎フィルムが終了しても、電池の容量が低下していると巻き戻しが始まりません。このような場合には電池を新しいものと入れ換えてください。(P.7参照)



9. カメラを使用したあとは

カメラに砂や泥が付いたときや水中で使用したあとは、以下の手順にしたがって必ず洗ってください。特に泥水にまみれたり海水中で使用したあとは速やかに真水で洗ってください。

洗う前には必ず、裏蓋および電池室が確実に閉まっていることを確認してください。

1)手を洗うほどの流量の水道水でカメラの表面に付いたゴミや泥、砂を洗い流します。

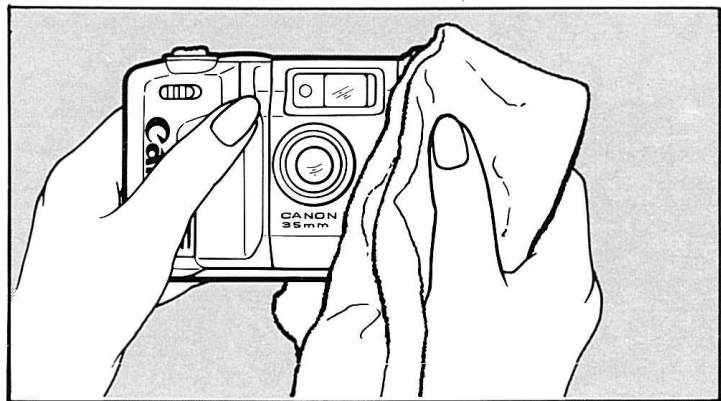


◎汚れたままのレンズ⑦、ファインダー⑱およびストロボ発光部⑥をこすらないように注意してください。

2)水の中にカメラを浸して軽くゆすりながら洗います。

シャッターボタン①を押したりシャッターボタンロック⑧を動かしながら、すきまにはいった砂や泥を洗い流してください。

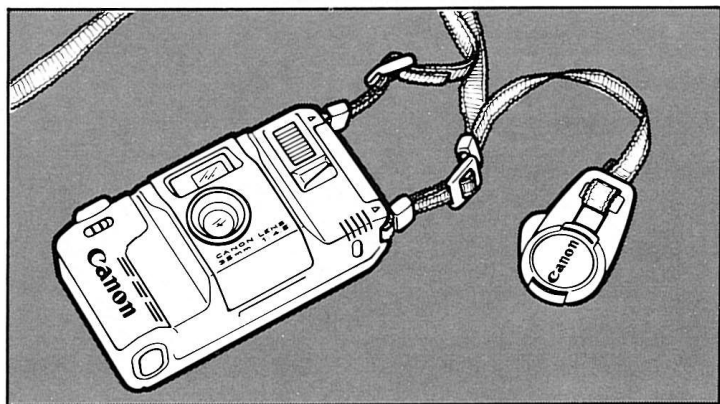
◎撮影途中のフィルムが入っているときには、シャッターボタンを押さないように注意してください。



3)最後に再び流水ですすぎます。

4)清潔な乾燥したやわらかい布で、カメラの水気をふき取ります。

◎水切りのためにカメラを振り回して物にぶつけないようにしましょう。



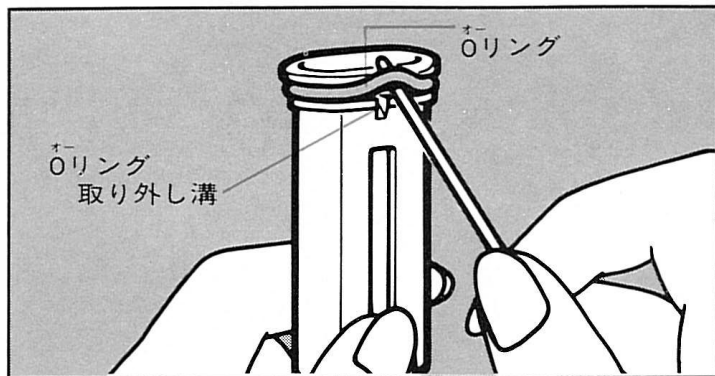
5)蔭干しにして乾燥させます。

◎ドライヤーなどで強制的に乾燥させないでください。

◎海中で使用したあとは、1～2時間ほど真水にカメラを浸しておいてください。海水の塩分が残っているとカメラを傷めるおそれがあります。

10. カメラの手入れと保管

- ◎カメラ内にゴミがついているときは、市販のブローブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラ内のレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。なお、特に汚れのひどいときは、最寄りのキヤノンサービスステーションにご相談ください。
- ◎カメラを長期間使用しないときは電池を抜き取り、風通しの良い、涼しくて乾燥した場所に保管してください。電池を入れたままにしておくと、電池の液漏れによりカメラが故障することがありますのでご注意ください。
- ◎湿ったままカメラを保管しないようにしてください。
- ◎直射日光下の車内やトランクの中などは高温になり、故障の原因となることがありますのでこのようなところにカメラを放置しないでください。
- ◎フィルムはカメラに入っている場合でも、空港のX線検査による感光は防止されません。フィルムの入ったカメラであることを検査官に伝え、X線の照射を避けてください。



11. ^{オー}Oリング・パッキンの手入れと交換

^{オー}くOリングの手入れ

1) バッテリーマガジン④を取り出し、^{オー}Oリング取り外し溝に、先の細い丸棒などを差し込んで^{オー}Oリングを外します。

なお、くぎ、はさみ、針など先のとがったものは使用しないでください。^{オー}Oリングを傷つけるおそれがあります。

2) ^{オー}Oリングを点検します。

キズがあるときは新しいものと交換し、砂やゴミが付いているときは流水で洗ってください。

洗ったあとは、清潔な乾燥したやわらかい布で軽く押えるようにして水気を取ってください。

◎洗剤を使って洗ったり、こすったり、引っ張ったりすることは避けてください。

3) ^{オー}Oリング溝と電池室入口を清潔なやわらかい布でふいてください。

4) ^{オー}Oリング溝に^{オー}Oリングをはめこんでください。



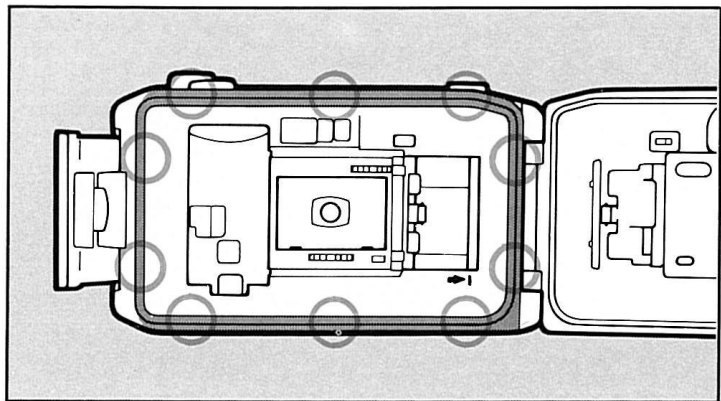
〈パッキンの手入れ〉

1) 裏蓋⑳を開け、ボディ側右下のパッキンのミミをつまみ、パッキンを取り出して点検します。

2) キズがある場合は新しいパッキンと交換してください。

ゴミが付着しているときは、流水で洗ってください。

洗い方、乾燥のしかたは^{オー}Oリングと同様です。



3) ボディ側のパッキン溝を清潔な乾燥したやわらかい布でふきます。

◎布の糸くずがパッキンやパッキン溝、およびボディの内部に残らないように十分注意してください。

4) パッキン溝にパッキンをはめこみます。

図のようにパッキンのミミが右下にくるようにパッキン溝にあてがい、まずパッキンの内側にある10個の小さな突起のついたところ

を、次に全体をパッキン溝に押し込んでください。

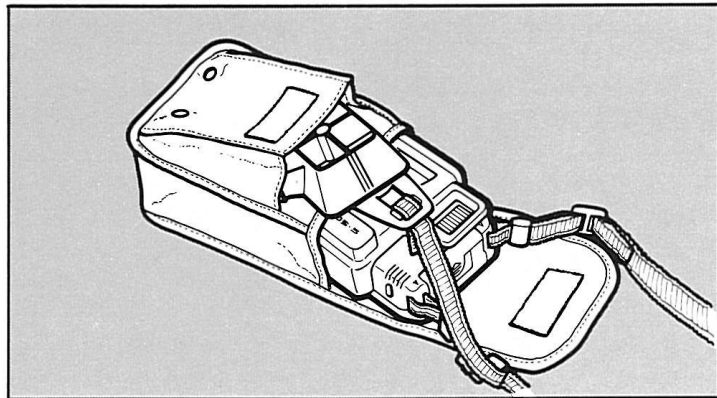
5) 裏蓋を閉じて、バックル⑬を掛けます。

6) もう一度裏蓋を開けてパッキンが正しく取り付けられたかを再度確認してください。

◎2年間使用した^{オー}Oリングおよびパッキンはキズの有無にかかわらず新しいものと交換してください。

ひんぱんに砂、ホコリ、水の中で使用するときには1年ごとに取り換えることをおすすめします。

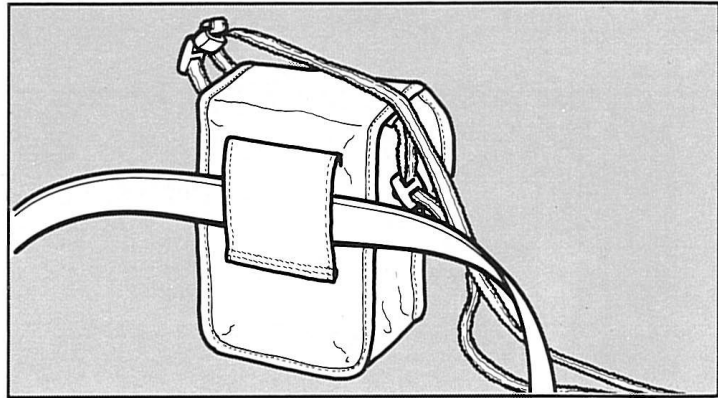
◎新しい^{オー}Oリングおよびパッキンは、裏表紙記載の当社サービス機関でお求めください。(有料)



12. その他のアクセサリ

ソフトケース

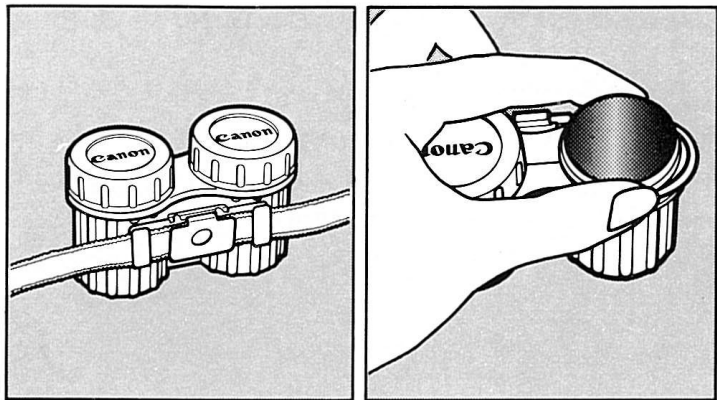
AS-6にアクセサリベースASを取り付けた状態で収納できます。スポーツファインダーASはソフトケースのポケット部にしまってください。



ソフトケースは図のようにベルトに通してもお使いいただけます。

クローズアップレンズASソフトケース

クローズアップレンズAS専用のケースです。カメラのストラップに通してご使用ください。

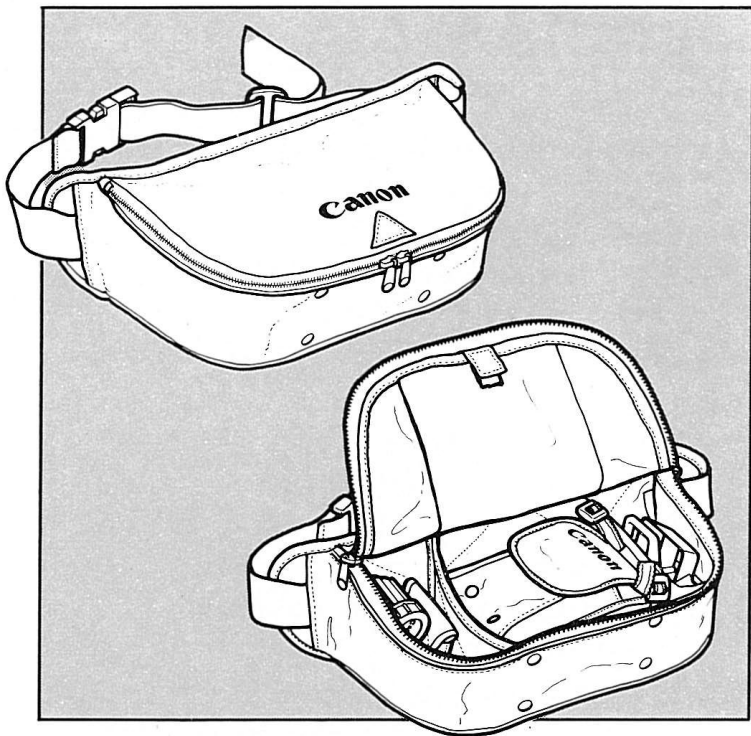


フィルムケースAS(別売)

フィルムを2本、またはフィルム1本と単4形電池を2本入れることができ、しかも真水に浮きます。

ストラップに取り付けてご使用ください。

- ◎フィルムケースの^{オー}リングは指でしごいて取り外すことができます。使用の際の点検は忘れずに行ってください。^{オー}リングの点検および手入れ方法はカメラの^{オー}リング・パッキンと同じです。



ウェストバッグ(別売)

AS-6本体からさまざまなアクセサリまですべてを収納し、腰につけて持ち歩くことができます。

主要性能一覧

AS-6

型式：35mmレンズシャッター式固定焦点全天候型
カメラ

画面サイズ：24×36mm

防水性能：水深10mまでの水中撮影可能

レンズ構成：5群5枚

焦点距離：陸上 35mm、水中 33.6mm

明るさ：F4.5

焦点調節：陸上 3m固定焦点
水中 1.5m固定焦点

撮影距離：陸上 1.5m～∞
水中 1m～3.2m

ファインダー：アルバダ式逆ガリレオファインダー
倍率0.45倍

ファインダー情報：視野枠、センターマーク、ストロボ撮影
指示兼バッテリーチェックランプ(赤色LED)

フィルム装てん：自動装てん

フィルム巻き上げ：自動巻き上げ(シャッターボタンの作動
による)

フィルム巻き戻し：フィルム終了時自動巻き戻し開始、完
了後オートストップ

裏蓋開閉：バックル式

フィルム枚数計：フィルムの動きに連動、順算式、裏蓋開
放により自動復帰、巻き戻しに連動して逆算、
フィルム在否確認を兼用

シャッター型式：絞り兼用プログラム式電磁駆動シャッ
ター

フィルム感度：DXコード方式により自動セット

測光作動範囲：ISO100でEV10～EV15(F4.5, 1/40秒
～F11, 1/250秒)

ストロボ：内蔵ストロボ

ガイドナンバー：9(ISO 100・m)

ストロボ連動範囲：陸上 ISO100 1.5m～3.2m
ISO400 1.5m～6.4m
水中 ISO100 1m～2m
ISO400 1m～3.2m

(ただし、水の透明度によって範囲が狭まることあり)

発光間隔：8秒以下(新品のアルカリマンガン電池使用
で発光後パイロットランプが点灯するまで)

撮影可能本数：新品のアルカリマンガン電池, 24枚撮り

フィルム使用時(常温20°C)

ストロボを使わないとき 約50本

ストロボを使うとき 約5本

電源：単4形アルカリマンガン電池2本使用

Ni-Cd電池使用不可

浮力：真水に浮く

容積：412cm³

大きさ：137.5(幅)×76.5(高さ)×51.5(奥行)mm

重量：385g(電池含む)

アクセサリベースAS

浮力：真水に浮く

大きさ：90(幅)×93.5(高さ)×53.5(奥行)mm

重量：45g

スポーツファインダーAS

浮力：真水に浮く

大きさ：85.6(幅)×72.2(高さ)×25(奥行)mm

重量：22g

クローズアップレンズAS

合成焦点距離：陸上 27.1mm

水中 30.5mm

最適撮影距離：陸上 フィルム面から126mm

水中 フィルム面から293mm

撮影画角：陸上 50.2mm×73mm

水中 122.8mm×177.2mm

浮力：真水に浮く

大きさ：46(幅)×55.5(高さ)×20(奥行)mm

重量：15g

クローズアップフレームAS

浮力：なし

大きさ：134(幅)×121(高さ)×123(奥行)mm

重量：80g

クローズアップロッドAS

浮力：真水に浮く

大きさ：42(幅)×66.5(高さ)×295(奥行)mm

重量：35g

◎都合により外観および仕様の一部を予告なく変更することがあります。

各部名称

AS-6

15 バックル

16 ストラップ取り付け部

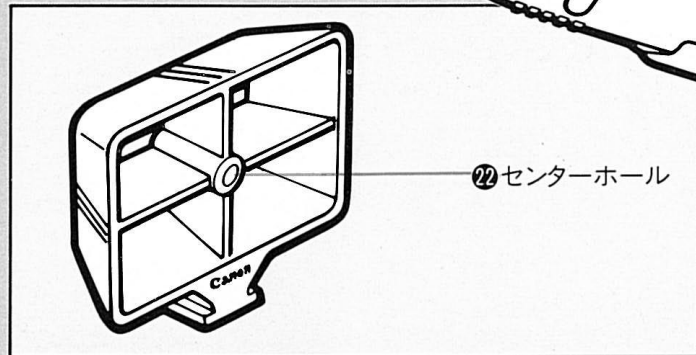
17 バックルロック

18 ファインダー

19 パイロットランプ

20 裏蓋

スポーツファインダーAS



21 バッテリーマガジン

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において5年間を目安に保有しています。したがって原則として期間中は修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期

間内でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏面の当社サービス機関にお問い合わせください。

★修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付する等、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

Canon

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田3-11-28
カメラ相談室 (03) 455-9353

◎サービスステーション・営業所

| | | | | | |
|---|---|------|-----------------------------------|---------|----------|
| 札 | 機 | 〒060 | 札幌市中央区北三条西4-1 (第一生命ビル) | ☎(011) | 231-1353 |
| 台 | 仙 | 〒980 | 仙台市一番町1-1-30 (やまと生命仙台ビル) | ☎(0222) | 66-4151 |
| 郡 | 山 | 〒963 | 福島県郡山市開成2-38-13 | ☎(0249) | 23-5618 |
| 新 | 湯 | 〒950 | 新潟市東大通り1-4-1 (マルタケビル) | ☎(0252) | 43-2111 |
| 銀 | 座 | 〒104 | 東京都中央区銀座5-9-9 | ☎(03) | 573-7834 |
| 新 | 宿 | 〒163 | 東京都新宿区西新宿2-6-1 (住友三角ビル地下1階) | ☎(03) | 348-4725 |
| 横 | 浜 | 〒221 | 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-4 (安田生命横浜西口ビル) | ☎(045) | 312-0211 |
| 大 | 宮 | 〒330 | 大宮市大成町2-273 | ☎(0486) | 66-3930 |
| 静 | 岡 | 〒420 | 静岡市鷹匠2-7-2 (静米会館) | ☎(0542) | 55-2241 |
| 名 | 屋 | 〒450 | 名古屋市中区名駅3-21-7 (三交ビル) | ☎(052) | 563-6822 |
| 古 | 田 | 〒530 | 大阪市北区梅田1-8-17 (第一生命ビル) | ☎(06) | 341-9335 |
| 京 | 都 | 〒604 | 京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町435 (京都御池第一生命ビル) | ☎(075) | 241-0216 |
| 金 | 沢 | 〒920 | 金沢市玉鉾2-266 | ☎(0762) | 91-1215 |
| 高 | 松 | 〒760 | 高松市紺屋町9-6 (高松大同生命ビル) | ☎(0878) | 22-3666 |
| 岡 | 山 | 〒700 | 岡山市中山下1-9-40 (新岡山ビル) | ☎(0862) | 22-8228 |
| 広 | 島 | 〒730 | 広島市中区小町2-30 (第二有楽ビル) | ☎(082) | 245-7791 |
| 福 | 岡 | 〒812 | 福岡市博多区美野島1-2-1 (キヤノン販売福岡ビル) | ☎(092) | 411-4173 |
| 縄 | 縄 | 〒900 | 那覇市泊1-2-2 | ☎(0988) | 67-2106 |

◎営業所

| | | | | | |
|---|---|---------|--------------------------|---------|---------|
| 青 | 森 | 〒030 | 青森市大字浦町字奥野351-7 (東和ビル) | ☎(0177) | 75-1666 |
| 盛 | 岡 | 〒020-01 | 盛岡市上堂3-2-15 (工藤ビル) | ☎(0196) | 46-8710 |
| 松 | 本 | 〒390 | 松本市双葉町10-22 (双葉町ビル) | ☎(0263) | 26-5549 |
| 千 | 葉 | 〒280 | 千葉市末広2-13-2 | ☎(0472) | 61-5121 |
| 大 | 分 | 〒870 | 大分市城崎町1-3-31 (富士火災大分ビル) | ☎(0975) | 37-4117 |
| 鹿 | 島 | 〒892 | 鹿児島市山之口町3-22 (住友生命鹿児島ビル) | ☎(0992) | 24-3141 |

◎サービスセンター

| | | | | | |
|---|---|------|------------------|-------|----------|
| 東 | 京 | 〒108 | 東京都港区港南2-13-29 | ☎(03) | 450-2731 |
| 大 | 阪 | 〒540 | 大阪市東区森の宮中央2-10-9 | ☎(06) | 941-1076 |

◎休業のご案内

新宿(第3木曜日)銀座・梅田(日曜日・祝日)その他(土・日曜日・祝日)

PUB.C-IJ-125
0186N04

© CANON INC. 1985
CY8-6039-001

PRINTED IN TAIWAN